



湖月抄

2



養菜上



是名をく祠と号とをともして号と。花
 わつるの上巻よハ
 左之右の小方わつるまうりまうりあり。あつるもすまうりわつ
 るまうりまうり。西小松系末代よりひひつれつや野へのま
 ちもふせよつじぶさ。細世上巻と玉警方源氏へわつるまうりせ
 結とあり。下巻よハ末代院のふ十代出だまよあまをせま
 さうりあり。仍世巻の名とあり。下巻にうらうらとん。若網の書籍
 よあまをわつりあまよみまうりえ末と下よわつるまうりまうり
 むねよ源尺多くあつて。下巻にうらうらとん。あまをわつる。花漢書高祖
 紀とあり。曲礼と下ハ記者分定檀弓と下ハ後人記とつらうま
 うらうら。簡策盤多あつり。級よ二巻よ分て。下巻とつらうま
 細目の中ハ別代と下。物終り。うらうら。この物終と下よわつる。り
 河海よ漢書古書と下。の沙汰あり。それとハ書巻。但又此註

女々ららよ細原ハ九一
 として春後よぬまらり柳
 もとごふふととなく昇
 進まどと甲下一まふ
 とい
 それよこれハ 細々方ハ昇
 をお連るる孟々吾ハ
 十九日奉として中納まよ
 記せらるるせりり

あやせりりてもおまよをけ
 せりり 牡丹花々々吾
 やまきまのまどぐれよる
 りとぶのあやよまらるる
 りいししとらるるを
 わまらりまよとハ作を
 らりし 師まよ一
 せりりいせりりらるる

せりりらるるまよ
 せりりらるるまよ

せりりらるるのまよ
 孟々吾とほのまよ
 せりりらるるまよ

まひさはらりらるるまよ

せりりらるるのまよ中納まよ

として女が果らるるまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

せりりらるるのまよ中納まよ

十

まことの天上天白との後式よりちかづりしをりぞ
開封戸年唐年爵をこしん天上天
多しよりちかづりしをりぞ天よみくもりくし
少門の脱履の後乃後式よりちかづり
り入るしはも又勿論なりと何封戸の戸と
多しよりちかづりしをりぞ也ふ戸万戸より
ちかづりしをりぞ也

乃後式もはくはりたりたりたりたりたり
田万事とそり推さふしお天をうれたるを俗と
ちかづりしをりぞ

細幸の擯柳毛の車
まじりての車まじりて中
在りしは車わりのり
孟擯柳ゴリヤと後し

西宮柳ニまじり天上天皇
御行供上人装束上皇
乗車擯柳朱産院柳金
今案唐庶る

細幸の擯柳毛の車
まじりての車まじりて中
在りしは車わりのり
孟擯柳ゴリヤと後し

まじりての車まじりて中
在りしは車わりのり
孟擯柳ゴリヤと後し
西宮柳ニまじり天上天皇
御行供上人装束上皇
乗車擯柳朱産院柳金
今案唐庶る

のち細幸の擯柳毛の車
まじりての車まじりて中
在りしは車わりのり
孟擯柳ゴリヤと後し

お朱産
お朱産
お朱産

お朱産の擯柳毛の車
まじりての車まじりて中
在りしは車わりのり
孟擯柳ゴリヤと後し
西宮柳ニまじり天上天皇
御行供上人装束上皇
乗車擯柳朱産院柳金
今案唐庶る

ほの
まうみまうし
世の光とてそとよ
うらふちをうらむげ
うらむちをうらむげ
うらむちをうらむげ

盆のついでに
盆りても舞合を
ひの葉のうらむちを
うらむちをうらむち
のついでに 所せとの
れちんうらむちを
盆のついでに 師一念十念
とありまのうらむち
うらむちをうらむち
うらむちをうらむち

盆のついでに
盆りても舞合を
ひの葉のうらむちを
うらむちをうらむち
のついでに 所せとの
れちんうらむちを
盆のついでに 師一念十念
とありまのうらむち
うらむちをうらむち
うらむちをうらむち

盆のついでに
盆りても舞合を
ひの葉のうらむちを
うらむちをうらむち
のついでに 所せとの
れちんうらむちを
盆のついでに 師一念十念
とありまのうらむち
うらむちをうらむち
うらむちをうらむち

盆のついでに
盆りても舞合を
ひの葉のうらむちを
うらむちをうらむち
のついでに 所せとの
れちんうらむちを
盆のついでに 師一念十念
とありまのうらむち
うらむちをうらむち
うらむちをうらむち

盆のついでに
盆りても舞合を
ひの葉のうらむちを
うらむちをうらむち
のついでに 所せとの
れちんうらむちを
盆のついでに 師一念十念
とありまのうらむち
うらむちをうらむち
うらむちをうらむち

人としていざらさぬの
此上位の帝は女に依り
もろろやまゝに人
と探りしより、朱雀の道
世の松子、藤原の御
て、人を探りしに、
れと、世と道と、
され、いざらさぬ人を探
ち、及び、
も、
か、
み、
ら、
不、
衆、
ろ、
内、
も、
と、

いざらさぬの
ひかかりたり、まゝして、今、この世と
いざらさぬは、まゝして、まゝに、まゝに、
と、あ、
さ、
ほ、
あ、
く、
け、
し、
め、
ま、

世の松子、藤原の御
て、人を探りしに、
れと、世と道と、
され、いざらさぬ人を探
ち、及び、
も、
か、
み、
ら、
不、
衆、
ろ、
内、
も、
と、

世の松子、藤原の御
て、人を探りしに、
れと、世と道と、
され、いざらさぬ人を探
ち、及び、
も、
か、
み、
ら、
不、
衆、
ろ、
内、
も、
と、

く、
せ、
納、
つ、
さ、
い、
こ、
う、
し、
く、
は、
お、
い、

せんく 細流香のけ盤
く師 後香ハ後と流香の
いんら 細流物家の後
うりは後と流香と目録
く流香と直量と
りて物家の後の器
すの家の帝は物家の後
四月三日 朝觀の初幸
のしめ延表帝仁和寺
仍幸する時ハ初幸
と撤せられて又三拜
しきり又うりも法皇
おも同くは茶と供世
りありは法所の所乃
おも此立俗の礼よえ
る中とのありは物家よ
朱雀流は物家の後ハ
粒を物しては法と
用ゆる寛平法皇の昔
の流とそふいふと 畧記

細流香のけ盤
は茶とすは流りては
いんらとあり
く細流物家の後
おも此立俗の礼よえ
る中とのありは物家よ
朱雀流は物家の後ハ
粒を物しては法と
用ゆる寛平法皇の昔
の流とそふいふと 畧記

あつては流りては
く細流物家の後
おも此立俗の礼よえ
る中とのありは物家よ
朱雀流は物家の後ハ
粒を物しては法と
用ゆる寛平法皇の昔
の流とそふいふと 畧記

ららと流りては
く細流物家の後
おも此立俗の礼よえ
る中とのありは物家よ
朱雀流は物家の後ハ
粒を物しては法と
用ゆる寛平法皇の昔
の流とそふいふと 畧記

ららと流りては
く細流物家の後
おも此立俗の礼よえ
る中とのありは物家よ
朱雀流は物家の後ハ
粒を物しては法と
用ゆる寛平法皇の昔
の流とそふいふと 畧記

のあまねうらよひついでに
入るよまじりて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて

らくしきんかひ
お原氏の幸若よひえは
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて

あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて

通くあつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて

あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて
あつらふよぶてはめりた
らんも 伊は若らん女三
の四つちのうらよひの
路いふらんていふて

正月廿三日 晴 正月の夜、

あま用子日、廿三日、日

よりるの夜、のりありき

花庭長二年、正月廿五日

甲子天子四十位、父上皇

後、采女調和若菜、養

供進、父上皇例、おわ

る、ト、ト、ト、正月の廿日

四十、若菜と、細和

と、と、と、と、と、と、

た、お殿の、お方、細か

ら、か、の、時、若菜と、用

る、と、と、と、と、と、と、

が、め、ま、の、よ、お、と、と、

あ、つ、む、様、お、よ、お、よ、

お、よ、の、お、お、例、と、

と、と、と、と、と、と、

益、お、お、お、の、お、お、と、

よ、お、の、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、

細序孫達(孟)の老
とらとらぬは孫ども
とらとらぬは孫ども
中納言のつらうと
細雲丹居膝(孟)の老
のゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

とらとらぬは孫ども
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

わらわらぬは孫ども
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

てあはれぬは孫ども
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと
ゆふゆふぬれぬと
まじほのこら孫ぬと

この細物箆物

ケリ

外記云延長二年正月六日

執事物盛小

折枝物物

入自日花

己上

若菜

盤

侍臣

中務

等之例

引りしきるね

まじりて

給仕の引

ふゆ人

はひ

引

あ

あ

あ

雑役 四十枚

わりひづ

うら

つら

ひん

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

これよりやうやう
細和を致すすす
かうきのあやせ又右左
くごあよゆり
方のあらし孟わり
かたち府いこやうり

巨陽殿 無名、樂堂書翰
あよゆりめ
西官抄云納殿累代
御物、納花人形
御物、納花人形
田朱崔花の同殿の娘
孟女一之と母同朱崔

あつてく 細一ふま
政去后うけ
くごあよゆり
あつてく 細一ふま
政去后うけ
くごあよゆり

さうがのく
御記去延表
十六年三月御堂ノ試
樂中勢、親王太宰
帥親王在階下侍臣五
六人又唱哥
多柳のそび給ねが
の堂 細は柳は堂
も勢のそび給ねが
西向の柳を多柳と

万の樂堂のあつてく

れらういんよゆりうくあわし
柳木の和装のよりいんよゆり
ひぐらういんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

いりていんよゆり
いりていんよゆり
いりていんよゆり

「さあねいあち中になき
一と方もしもよきとわ

しほりくしほりも
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも

世中もいひつゝあつたを
まどくしつゝあつた
しほりてゆきよの
せんしほりも
お例よくりりりりりり
のさりんちとせりりり

がよきつゝあつた
中流上の内中
んくのさつた
路よきつゝあつた

張分まての
作 葉上の内中
さつたつたつた
はあつたつたつた
のわつたつたつた
てんがあつた
お例よくりりりりりり
のさりんちとせりりり

ほのほのさつたつた
のさつたつたつた

まりやうらひあつた
ほのほのさつたつた
お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも

お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも

お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも

お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも
お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも
お例よくりりりりりり
お花お里ゆんちも
うらひやうが美の内中
さしてよし 孟三の後
らせ路やさぞと方よ
さうしほりも

細さうらぶらぶらわがめのおよみあり
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

細さうらぶらぶらわがめのおよみあり

おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又
おののけのりつりよ 諸のりつりて又

こころをぬきとてさういふあや
あつこのりり 細 和ぬきさるれむ
まわつておととそとそ 孝隆のま
まふふよさうあつれむも 徳
お首と勝のふうらさ人されば
ゆりて押してほのかつて

例ハさーもえつぬり
と お首のふうらさ人されば
引つてらひまゝあつて
お首のふうらさ人されば
孟女三の庄の娘はほ
ゆりて押してほのかつて

うら車のはりしめがて
お首あひわりさういふ
いー時とさういふ物とさ
つれら車まがわりし
さういふ物とさういふ
お首のふうらさ人されば
まふふよさうあつれむも
お首と勝のふうらさ人されば
ゆりて押してほのかつて

母まゝの中の内 細女ま
よせよとてつゝあそよおむ
わさぶー

まゝりも 細 若人の心
ゆゑにとてつゝあそよおむ

若く肝のつとにうら
よとてつゝあそよおむ
つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

人の心はつとにうら
つとにうらつとに肝
らうら

どまらり 細 若人の心
ゆゑにとてつゝあそよおむ

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

つとにうらつとに肝
らうら

君よそく 我君の人の
秋も冬も 春も夏も
の心もわがこころの
夏の後悔もわが心
とわが心もわが心
へい 又もわが心
わが心もわが心
わが心もわが心

あまの 細腰の
はあや 友の
わが心 細腰の
くわが心 細腰の
よはの心 細腰の
萩の下葉の心 細腰の
あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

あまの 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の
わが心 細腰の

わたくし何れもよきにつけては幸わんとおぼしむ

世の中はつらひなるんや
白氏文集 驛官高 五君

不遊有深意二人出兮

備八十一車千五騎朝有

宴飲暮有賜中人

産数百家未足充君

一日費孟ゆ幸八民のれを

勝り

お高幸中の抄のやとい

のう孟姑ぬ中まより

源のゆたせせうう

二年天子四十萬布四十

後十三万に誦誦を候

せりり 河津紀延長四

年十二月十九日此日本奉為

太皇息災増寶壽於

京辺七ヶ寺南京七ヶ寺

東大真福元興太安藥

師栗 法隆御修經之事

其布施用絹六百疋布六

千端

りうさ於の四十万 嘆 大

略のうらるるやうを

うらるるやう

又まらうと木の 細 二親の

ゆさうりー金ちさ今

源のゆさうりー金ちさ今

まじく孟姑ぬの父母が

一まじく孟姑ぬをせんた

らう終もことこの世がよきにつけて

もさるごとくわぶくわがしきまをたれ

ど世中のうづひあらんこころうよま

せ終あぐらんをひし終くしむびく

よぬわねの口わくわがしきまをたれ

との九日あむらの後よ中交まをたれ

まてことこの世がよきにつけて

れ七大夫よ痛經ぬれ四千どんびら

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

ま終の四十寺よぬ口百をたれ

清和天皇御給之と案巡長の御契の御事無王に御よりまづせうくはりて流の御
やののりり是と引く内裏より近來よりとすを御らんまてしめられたるの御人せめて
是と流の御流の御事、内裏よりひきせうくはりては余の御まづるる御府の御人せめて
引くは、御事

と案府の御人 西六衛府左右近來府左案府右案府

まんごらうく 細谷介子樂
教多の御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

と案府の御人 西六衛府左右近來府左案府右案府
孟相の御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

の御事御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

今と案府の御人 西六衛府左右近來府左案府右案府
孟相の御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

今と案府の御人 西六衛府左右近來府左案府右案府
孟相の御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

の御事御事とされど御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事
御事とわけてまうらうら
花みれも御事とまうら
わく御事
御事とまうら御事 細谷
と御して御事の内御事
まうら御事 御事

今更の世に 細心の
御も今更の世に 御も

物言まうとて 世の
その上と世の
くまの
あまの
と月も
これよ
の

いふんは世の
か
今更の世の
か
と

ぬがらぬ
子と
は

はり
は

ら
は

し
は

り
は

の
は

は
は

は
は

は
は

今更の世に
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

は
は

ものつれいせきよせいせき

くさきくさのあがつらさき
くさきくさのあがつらさき
くさきくさのあがつらさき

あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ
あふくさくさくさくさ

の回さくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

あふくさくさくさくさくさ

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

うらみ...
おとあはま...
い...
ぬ...

細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ

細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ

細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ

細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ
 細めの上の紙がより
 まつりて紫ととみ
 万華と思ふ

ていといふゆゑのゆゑに
我々はほろろのゆゑに

思ふてなすらんといふ
今わく 細原格を人波

訓之事の由をいふ
の文にさしあはせしむ

しつらうとていふ 細史
見せしむるはよとていふ

いふの 細原格を人波
人の心とていふ

後の心とていふ
意よとていふ

上格をよとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

さうつらうとていふ
さうつらうとていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

今まいさうとていふ
の心とていふ

あつらふものおとどけし 伊もし甲一女房の中のもの
のうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
あつらふものおとどけし

ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり

あつらふものおとどけし 伊もし甲一女房の中のもの
のうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
あつらふものおとどけし

ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり
ひよのうらみよ 一編よせり

あつらふものおとどけし 伊もし甲一女房の中のもの
のうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
あつらふものおとどけし

あつらふものおとどけし 伊もし甲一女房の中のもの
のうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ
あつらふものおとどけし

花よこれこのよ
おほのくももまの
まて盆めきまへ
ころり

さうていさなうり
細葉上へおこるく
まのいさしきのみ
しとのまうさるん

そまひるま 細
おほのくももまの
ころり

くまのり

いさなうり 細
おほのくももまの
ころり
まのいさしきのみ
しとのまうさるん
そまひるま 細
おほのくももまの
ころり

七六

よめくさうさるの程物格一すつてまの
おほのくももまの
まのいさしきのみ
しとのまうさるん
そまひるま 細
おほのくももまの
ころり
まのいさしきのみ
しとのまうさるん
そまひるま 細
おほのくももまの
ころり

いさなうり 細
おほのくももまの
ころり
まのいさしきのみ
しとのまうさるん
そまひるま 細
おほのくももまの
ころり

いさなうり 細
おほのくももまの
ころり
まのいさしきのみ
しとのまうさるん
そまひるま 細
おほのくももまの
ころり

七六

の内とつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

柳本のみよるとわかれ
とちいて仲立ちとん
ゆへん 祇めり
あつてまのなを

あつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

いそいでてめね 孟
の考し 仰し
よつてて我れよせぬ
いせしよなび
れなぬえを
一目のふと 細
よつてまのなを
あつてまのなを

孟 柳本のころらうと二冊

一冊さくほのくさばり

あざとく

細事 内より

例のく 細うもや

うり小作はくくう

はるのつまより

とまのつまより

ゆほのつまより

けつれより

ちんれより

とまのつまより

えんしあぬと

うわのく

えんしあぬと

今さうより

らるんが

細引

けんことばわさでえん

しんじかさるりり

くさけいばす

とまのつまより

一回とつれ

とまのつまより

とまのつまより

われはく

今さうより

ぬねより

とまのつまより

とまのつまより

とまのつまより

とまのつまより

とまのつまより

